

医学部附属病院

周産期母子医療センター

安心して生み育てられるよう万全のチーム体制でフォロー



陣痛 (Labor) から、分娩 (Delivery)、産後回復 (Recovery) まで過ごせるLDR室は2床。

早産や先天性疾患などの赤ちゃんの全身管理を行うNICUは6床。



NICUスタッフの背中には「One for All, All for Children (一人はみんなのために、みんなは子どもたちのために)」の文字が。

森尾友宏センター長◎「私自身、小児難病を専門とする小児科医です。妊娠、分娩、産後からお子さんの発達まで、途切れなくフォローできるのが一番の強みです」

診療科DATA

センター長	森尾友宏 (小児科・教授)
概要	産科病床20床、個室分娩室 (LDR) 2、分娩室1、陣痛室2、NICU6床、GCU6床
対象疾患	合併症妊娠・分娩、ハイリスク妊娠・分娩、胎児異常、早産児 (未熟児) 分娩、病的新生児、早産児 (在胎28週以上)
出産サポート	妊婦検診、分娩予約、超音波スクリーニング外来、出生前検査、助産外来、母乳支援外来、育児支援外来、LDR、マタニティクラス



左上から、廣瀬明日香助教 (産科)、野村恭子看護師長。左下から、滝敦子NICU室長 (小児科)、森尾友宏センター長 (小児科)、宮坂尚幸副センター長 (産科)。

2015年4月、地域周産期母子医療センターに承認されたことを受けて設立された周産期母子医療センター (分娩部から改称)。産科医、小児科医、看護師、助産師、臨床心理士、臨床遺伝専門医などによるチーム医療を実践し、妊産婦と赤ちゃんを守る。

「年間分娩数は500件以上。その多くが合併症妊娠や高齢出産などのハイリスク妊娠です。早産児や病的新生児でも安心して分娩できるよう、NICU (新生児集中治療室) を含む万全な連携体制を整えています」と森尾友宏センター長は語る。

「NICUでは、24時間体制で赤ちゃんの全身状態を管理しつつ、治療中の赤ちゃんとお母さんができるだけ触れ合えるようなケアを心掛けています」(滝敦子NICU室長)

「胎児の病気が判明した場合などは、妊娠中から小児科医と個別に話ができるペリネイタルビジットを行います。小児科医と話した後は、妊婦さんの気持ちがとても落ちつくようです」(宮坂尚幸副センター長)

合併症やリスクの有無にかかわらず、妊産婦に寄り添ったサポートや育児支援にも注力している。

「助産外来は出産や育児に対する

不安を抱えた妊婦さんが相談するための場です。産後ケアの一環として、育児支援外来や退院後の母子が集まる“すくすくの会”なども行っています」(野村恭子看護師長)

「出産直後の入院中から母乳支援に力を入れ、退院後も相談できる母乳支援外来を開設しています」(廣瀬明日香助教)

母体搬送も年間50件以上あるが、ERとも協力して受け入れる。「どんな妊婦さんでも安心して分娩し、赤ちゃんが健やかに育つこと。それが当センターで働く私たち共通の願いです」(森尾センター長) **B**